

TPA

Newsletter



Vol.38 May 2008



会員の皆様におかれましては、平素よりTPA・JTECS事業に格別のご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。泰日経済技術振興協会(TPA)日本語ニュースレター“TPA Newsletter”5月号をお届けいたします。今後とも、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。



最近の活動

◆ Thailand Quality Prize 2008 ◆

3月18-21日、第25回TPA QC大会”Thailand Quality Prize 2008”を開催いたしました。今年も、最終審査に勝ち残った製造・サービス部門から、計21チームが自慢の成果を発表しました。厳格なる審査の結果、各部門におけるダイヤモンド賞、金賞、銀賞の受賞チームが決まり、狩野博士より各賞が授与されました。

また、最終日の21日には、東京理科大学名誉教授 狩野紀昭博士による基調講演”Quality in General and QCC”が執り行なわれました。大会には、4日間を通し 1300名あまりの参加がありました。



狩野博士(右)



各ダイヤモンド賞受賞チーム

◆ 日本人対象「安全管理者」コース ◆



3月20-21日、日本人対象「第7期安全管理者コース」を開催し、64名の参加がありました。



◆ 日本人専門家による特別セミナー「TQM Best Practice」 ◆

2008年3月22-23日、東京理科大学名誉教授で、数々の品質管理に関する賞を受賞されている品質管理の権威 狩野紀昭博士をお招きし、「TQM Best Practice」セミナーを開催いたしました。土日ではありましたが、セミナーには48名の方が参加されました。



★お知らせ

◆ TPA総会 ◆

5月24日(土)、パタナカーン新館において、2008年定時総会を開催いたします。
総会に先立ち、特別セミナーも開催いたしますので、TPA会員の皆様に置かれましては、是非ご参加の程、
お願い申し上げます。

11:30-13:00	特別セミナー受付ならびに昼食サービス
13:00-14:30	特別セミナー『Toyota's Policy and Implication to Thai Auto Industry』 ・ 園田光宏氏: Toyota Motor Thailand Co., Ltd.社長 ・ 大村英一氏: Toyota Motor Asia Pacific Engineering and Manufacturing Co., Ltd.社長
14:30-15:00	コーヒーブレイク
15:00-18:00	総会

セミナー申込締切締切 5月16日 (申込用紙は、総会案内と共に送付済)

申込先: Fax. 0-2259-9117, 0-2258-6440

◆ TPA ロボットコンテスト ◆

2008年6月1日(日)(予選:5月30・31日)、モールデパート バンカピ店 MGC HALLに
て第15回“TPA Robot Contest Thailand Championship”を開催いたします。

15回目の今年は、下記4種の競技会を開催いたします。

1. TPA Robot Contest Thailand Championship “Touch The Sky”
2. TPA Robot Grand-prix Junior
・ Robo Basketball 競技
・ Robo Delivery 競技
・ 寸劇 競技
3. PLC Competition “TPA ROBO PETANQUE COMPETITION 2008”
4. 応援合戦

学生達の熱戦を応援に、是非お立ち寄り下さい。



◆ 泰日工業大学(TNI) 新規開講プログラム ◆

昨年開校した泰日工業大学(TNI)では、自動車工学、IT、工業管理に加え、今年度より、生産工学、日本語経営学、コンピューター工学コースが新たに開講されます。大学院においても、工業管理MBAコースに加え、上級企業家MBAコースが開講され、今年度は総勢800名以上の入学を見込んでいます。

今年度新たに開校した経営学部 日本語経営コース(仮称)では、従来の工業管理コースに比べ、日本語学習期間が倍加(週6時間)され、日本語応用力を強化し、日本の簿記、ビジネス習慣、日本の企業風土などの学習を日本語ですることにより、一段と日本企業のニーズに合致した人材を育成して参ります。



常勤日本語講師募集

泰日工業大学では、新年度に備え日本語講師を募集しています。
応募ならびにお問い合わせ先: E-mail: weranuch@tni.ac.th, busara@tni.ac.th

◆ Special Interview ◆

「なぜなぜ分析」とはどのような方法でしょうか？

なぜなぜ分析とは、発生している問題の原因を筋道立てて追求していく分析のことを指します。ブレインストーミングの、音で意見を出し合い、近いものを結び付けていくのではなく、ひとつひとつ論理的に筋道立ててやってゆき、目的とするところまで「なぜ」をくりかえしてゆくものです。

「なぜなぜ分析」のルール化とその体系化に取り組んだきっかけについて

「なぜ」を5回繰り返せば真の原因に行き当たるということは、従来から改善の本の中で格言のように言われてきました。しかし、自分がコンサルタントになった当初日本では、筋道の立っていない、いわゆるつながりのない「なぜ」の繰り返しがほとんどで、思いのままに発生要因をシートに埋めただけといった状態で原因追求がなされていました。そのため、色々な書籍を調べてみましたわけですが、本に書かれているのは「なぜ」を5回繰り返せという精神的な話ばかりで、ルールがなにもないことに気がきました。

そこで、自分でルールをいくつか作り始めてみたところ、多くの企業に受け入れられたため、約3年かけて7つのポイントにまとめ、1997年に日本初の「なぜなぜ分析」の本を発刊するまでに至りました。

さらに2002年には、7つのルールをより強化・充実させた「なぜなぜ分析10則(10のルール)」を構築し、その後さらに修正し、2007年度版「なぜなぜ分析10則」ということで現在に至っています。

このようにルールを作っていく際に念頭においたことは、スタッフだけに通用するような難しいルールではなく、オペレーターの人でも出来るようなルールでなければならないということでした。昨今発生するトラブルの多くは、非常に複雑で、様々な要素がからんでいます。そのようなトラブルを解明していくためには、現場の力、意見、考え方が欠かせません。また、彼らの意見を分析に反映させ、維持管理の実施を確実にしていくためにも、彼ら自身が使いやすい分析でなければいけないと思ひ、できるだけやさしい表現で、わかりやすくまとめようと思ひかけています。

分析前にやるべきこととは？

まず1つ目は、課題の抽出をしっかりとすること。ひとつのトラブルが発生したからといってひとつの分析をすればいいというものではありません。ひとつのトラブルの中で、解決しなければならない問題はいくつもあるものです。例えば、クレーム発生時のトラブルならば、原因分析はひとつではなく、3つの切り口(テーマ)で分析しなければなりません。ひとつは、クレームになった製品を作ってしまった原因追求(製造原因の追求)。そしてそれを出荷させてしまった原因追求(流出原因の追求)。もうひとつは、営業・会社側の対応の仕方、適切な対応を取らなかったなどの対応のまずさについても原因追求するべきで、3つの課題それぞれに対して分析を実施する必要があります。

2つ目は、物事を適切に捉えることです。変形・偏といっても、様々な変形や偏が考えられます。違いを見極めて物事の物体を捉えることが重要です。

3つ目は、捕らえた現象を言葉で表現することで、憶測の入ったような表現はしないことが重要です。

4つ目は、対象物をきちんと理解することです。しくみがはっきりわからないまま分析しても、ろくな分析は出来ません。例えば、設備であれば、残らず全部の部品を理解することは出来ないにしても、どんな部品がどのようにつながっているのかについて確認しておきたいものです。

5つ目は、前提条件をきちんとリストアップしておくことです。要因から外してもいいものに関しては全てリストアップして、無駄な「なぜ」を考えなくても良いようにしておきます。

「なぜなぜ分析」の心構えとは？

いろいろありますが、ひとつあげるとすれば、人間誰しも偏った見方、経験、考え方を持っているので、一人だけの分析で満足しないことです。様々な人の考え方を入れながらやっていくことが、自分の考え方の修正にもつながります。自分の考え方を修正することで、今まで思いもよらなかった要因を導き出すことが出来るようになります。特に、製造現場で発生している場合には、スタッフだけでやらずに、現場の意見をいれながらやっていくことです。そうでないと、結局要因漏れが発生しやすくなります。

「なぜなぜ分析」のメリット・デメリットについて

なぜなぜ分析は、今まで培った知識・経験を最大限に使って考え方を組み立て直し、筋道立て、原因を抜けなく捜していくことができるというメリットがあります。

通常私たちは、断片的な知識・経験だけで物事を考えようとしてしまい、今までの知識・経験をフルに活用していません。一方、原因追求のような場合には、今までの知識・経験をフルに活用し、筋道立ててやっていくかしなければ、なかなかすべての原因を見出すことはできないものです。しかし、いざ使おうと思っても、頭の中に詰め込まれた知識・経験は、なかなか出て来てくれません。そこで、「なぜなぜ分析」を使うことで、「なぜ」を理屈立てて考えていくことにより、平づる式に頭の奥に入っている知識・経験を引きずり出していくことができ、様々な方向から発生要因を抜けなく洗い出していくようになるわけです。

そうすることで、論理的に物事を整理できる思考力が身につく、普段の様々なシチュエーションにおいて論理的思考が出来るようになるります。さらには、論理的に説明ができるようになります。

デメリットとしては、チェスや囲碁、将棋と同じように、何度も繰り返さないと論理的な思考は身に付かないということです。出来るようになるには、せめて4つないし5つくらいのテーマに取り組まないと、上手く「なぜ」を誘導できないでしょう。最初は時間もかかるかもしれませんが、慣れてくれば、先を読めるようになり、短時間で導き出せるようになります。

現場で「なぜなぜ分析」以外に取り組まないといけないことについて

第一線である現場では、3つ必要なものがあります。それは、気づき力、論理的思考力、改善力(発想力)です。論理的な思考力だけで現場が回るわけではなく、現場の様々なことに気づくこと、そしてその気づきに対して論理的に追求し、不都合なものを発見していくこと、さらにそれら不都合なところに対してどうやって克服するかというアイデアを出していくことの3つがどうしようも必要となります。それらを養っていく方法は、TPMであれ、TQCであれ、改善活動であれ何でも構いませんが、どのような方法を使うにしても、その3つがきちっと出来るよう目指すべきです。もちろん、論理的思考力を高めるためには、なぜなぜ分析が十分に効果を発揮します。



小倉 仁志 (おぐら ひとし) (有)マネジメント・ダイナミクス社長
デュポン・ジャパンを経て、1992年(社)日本プラントメンテナンス協会に入籍。
国内外の製造業や営業所において、人を中心とした体質改善を図りながら、TPMの指導に従事。
1997年国内初の「なぜなぜ分析」に関する書籍を同協会より発刊
2005年4月、(有)マネジメント・ダイナミクスを設立。
2006年5月より、(社)中小企業診断協会 神奈川県支部 理事に就任



★ 今後の予定 -----

★ 語学部より -----

◆ スクンビット本校タイ語コース ◆

コース	Code	受講日	時間	受講料(ハーツ)	申込期間	開講期間
初級会話	T1 08-002	月～金	9:00～11:30	7,200 100時間	4/23～5/26	5/28～7/25
"	T1 08-003	"	"		5/27～6/22	6/24～8/22
"	T1 08-004	"	"		6/23～7/28	7/31～9/25
"	T2 08-002	"	"		5/24～5/28	5/29～7/28
"	T2 08-003	"	"		6/24～6/29	6/30～8/28
中級会話	T3 08-001	月・水・金	"	7,200 100時間	3/11～5/26	5/28～9/3
"	T4 08-001	"	"		6/24～6/29	6/30～10/3
初級会話【夜】	T1 08-02Y	月・水・金	18:30～20:30	7,250 (6～7名) 6,400 (8～10名) 5,700 (11名以上) 60時間	5/5～7/18	7/21～9/26
タイ文字	W1 08-001	月・水・金	9:00～11:30		5/20	5/23～7/23
"	W1 08-002	火・木	"		7/21	7/24～10/14
"	W2 08-002	月・水・金	"		7/30	8/1～9/24
会話復習	TF1 08-002	火・木	"		6/27	6/30～8/27
短期集中 タイ語会話	TIC 08-003	月・水・金	12:45～15:00	3,200 30時間	6/27	9/3～9/29

- * 後期コースT2, T4, W2は、前期コース修了者が対象です。(T2については、レベルテスト合格者も可)
- * タイ文字コースは、T2修了者が対象です。
- * 受講者が定員に満たない場合には、開校されない場合がございます。
- * 「タイ文字」ならびに「短期集中タイ語会話コース」は、観光ビザの方でも受講できます。
- * 初級・中級につきましては、観光ビザでは受講できません。日本国内の姉妹団体 (財)アジア学生文化協会 ABKアジアセミナーを通してお申し込みください。就学ビザの取得ができ、午前コースへのお申し込みが可能です。問い合わせ先: seminar@abk.or.jp

◆ タイ語のビジネスコミュニケーション ◆

タイで働くビジネスマンのためのビジネス会話コースです。 仕事でタイ語を使う際の、便利な表現・言い回しなどの会話学習のほか、タイ人の考え方・ビジネススタイルなども指導します。

	初級	中級
コース期間	2008年7月23日～12月3日 水曜 18:30～20:30	2008年7月16日～10月22日 水曜 18:30～20:30
時間数	40時間(20回)	30時間(15回)
受講料	6,000ハーツ	4,600ハーツ
申込締	7月17日	7月9日

プログラム

- * 会社のタイ人の同僚や部下にタイ語で仕事を頼んだり、確認するのに便利な表現
- * 顧客との会話(ネゴ、クレーム、問い合わせ、電話)
- * ビジネス専門用語、会議で使う表現
- * タイ人の考え方、ビジネススタイル、仕事上での注意点など



◆ メディアでタイ語講座 ◆

会話力、聴解力、コミュニケーション能力の向上を目指す新コース。
経験豊富な講師から、タイ人の生活、観光地、料理、行事、重大ニュースなどのトピックスを中心に、ビデオ、新聞、テープ、雑誌などを使って学びます。

期間： 2008年6月24日～8月14日
日時： 火・木 12:30～14:30
人数： 6～10名
受講料： 4,500バーツ



タイ語コース担当連絡先 : Tel. 0-2258-0320 Ext. 1640,1641 e-mail: thschool@tpa.or.th

改善活動はでお困りなら、
この雑誌がお答えします！

Creative & Idea  KAIZEN



プロモーション

人を育て 仕事を楽に！

- 5名の申し込みで1名無料
 - 改善ポスター(4枚セット)ついています
- 「Creative & Idea Kaizen」は、日本で2万冊以上の会員を持つ日本HR協会発行の改善情報誌「創造とくふう」のタイ版です。日本における製造業・サービス業の改善活動を中心に、週-イラストをふんだんに使い、紹介-掲載しています。改善活動推進の大きな助けとなる情報誌です。

見本お送りしています



定期購読料金： 500バーツ(税/送料込み)
： 年間配本12冊

改善標語コーナー

仕事のやり方・総点検
ワンポイント

4

生産性向上

世の中の変化に合わせてやり方を変える

サービス向上

コストダウン

仕事のやり方・総点検
ワンポイント

世の中の変化に合わせてやり方を変える

世の中の変化に合わせてやり方を変える必要はない。昔のままの状況・条件なら、「昔のやり方」で充分だ。何もワザワザやり方を変えなくてもよい。しかし、世の中は否応なしに変わっている。ゆえに、それに対応して、我々の仕事のやり方も変えていかなければならない。もちろん、「カエル方法」はイロイロある。辞書を引くなり、ワープロを叩くなりすれば、変える、換える、替える、代える、返る、翻る……など。つまり、いろいろな変え方があるということだ。

日本HR協会
「カイゼンカード」より

★ 出版部より

TPA書籍は、TPA Book Center(スクンビット本館、パタナカーン新館、ランシット分校)、及び一般書店にて販売されております。一部TPA出版物は、JCCでも、ご購入いただけます。また、クレジット決済も可能なオンライン通販も実施しています。是非ご利用下さい。



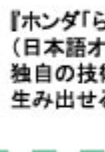
<http://www.tpabookcentre.com>



◆ 新刊書翻訳書籍のご案内 ◆



『ダメな自分を救う本—人生を劇的に変えるアファメーション・テクニック』 165ページ
 (日本語オリジナル: 祥伝社発行、石井裕之著)
 ニセ占い師が使ってきた心理術「コールドリーディング」でも使われる“潜在意識のメカニズム”。人生を思い通りに進めている人は、「意識と潜在意識の連携がスムーズにしている」のです。深いところで自分を強気に動かしている潜在意識を味方にするための、最強の「アファメーション(自己暗示)」を紹介。最高の自分を引き出す実践心理テクニックが手に入れられる著者渾身の一冊です。



『ホンダ「らしさ」の革新—突き抜けたクルマづくり』 245ページ
 (日本語オリジナル: 日本産業新聞発行、日本産業新聞編)
 独自の技術経営を展開し、好業績を続けるホンダ。巨大化を続けるなか、新時代の「らしさ」を生み出せるのか。好調ホンダの死角を探り、今後の展開を占う渾身のルポです。



『餃子屋と高級フレンチではどちらが儲かるか?』 180ページ
 (日本語オリジナル: ダイヤモンド社発行、林 總著)
 ビジネスストーリーで学ぶ会計の入門書。小説仕立てになっているため、会計についてほとんど知識のないビジネスパーソンでも、ストーリーを読み進めるうちに、自然に決算書の読み方やキャッシュフロー経営のしくみ、経営に必要な会計センスが身に付くという内容になっています。広くビジネスパーソン全般に、おすすめしたい1冊です。



『<縁切り荘>の花嫁』 175ページ
 (日本語オリジナル: 実業の日本社発行、赤川次郎著)
 女子大生探偵と愛犬コンビが繰り広げる花嫁シリーズ最新作



TPA Book Centerでは、技術書・語学教本・読本など書籍の他に、各種ポスター、ビデオなども販売しております。スクンビット店・ランシット店では土日も営業いたしております。また、配送サービスも承っておりますので、遠方の方もお気軽にご連絡下さい。



スクンビット店

スクンビット・ソイ29, 月~金 8:30~18:30
 (土・日 8:00~17:00)
 Tel: 0-2258-0320 Ext.1570, Fax: 0-2259-9116,
 E-mail: tpab_s@tpa.or.th
 パタナカーン・ソイ18, 月~土 8:00~17:00
 Tel: 0-2717-3000, Ext.202, Fax: 0-2719-9478,
 E-mail: tpab_p@tpa.or.th



パタナカーン店

☆ 在タイ日本人のための、日・タイクロスカルチャー講座（第25回）☆

（本講座は、TPA書籍「日本 クロスカルチャー タイ」から、内容を一部抜粋しております）



「冠婚葬祭」



タイ人の結婚式は一般的に内輪で行うことが多く、むしろ披露宴を盛大に行うケースが多い。披露宴には招待状を出す、テーブルの席次が決まられていないため、招待を受けない友人・知人等の参加も自由で、食事だけご馳走になることもある。

成人男子が生涯に一度は出家する「ガーン・ブアット」は、「男子の本懐」的に大切な行事の一つ。結婚前に出家すると徳は両親のためになるとされており、多くが独身時代に得度・出家する。また、安居入り（あんごいり；だいたい7月ごろ）前に得度すると、約3ヶ月後の出安居まで還俗できない決まりがあり、最近では、安居入り前の時期に1～2週間だけ短期的に

葬儀は、庶民の場合4～5日後に火葬にするケースが多い。参列者は香典のほか、故人と親しかった場合には、供物として仏前に生花や花輪（名入り）を贈る習慣がある。入館後は毎晩僧侶による読経がある。なお、僧侶に対するお布施、参列者への夕食や飲み物の費用を、故人と生前親交のあった友人や企業がスポンサーとなって負担支援する美しい制度が残されている。従って、交際の広い有力者の葬儀ではスポンサーが多くつくことから、葬儀が100日間という長期に亘ることも珍しくない。中国社会の葬儀では、涙を拭くためのハンカチが参列者に配られ

以前は、参列者に仏教関係の本や高僧の履歴本を配ることがあったが、最近の傾向として、特に生前社会的に貢献した人の葬儀の場合、業績を纏めた記念本を作成し、参列者に配ることもある。

- * 「日本 クロスカルチャー タイ」は、TPA Book Center各書店、バンコク日系書店、JCC、日本人会別館などにて好評発売中です。（199ページ）
上記の紹介例をはじめとする124の事例をもとに、日本人がタイで生活・仕事をする上での注意点、タイ人スタッフとの接し方、タイ社会のタブーなどを面白く解説した書籍となっています。
- * 日本国内では、アジア文庫（神保町：電話03-3259-7530）にて取り扱っております。こちらも含めて、御利用ください。

☆ セミナー一部より

<http://www.tpif.or.th/>

◆ 労働省指定『安全管理者』セミナー 協力：JCC ◆

日本人管理者を対象に実施している『安全管理者』セミナーです。労働福祉省より受講が義務付けられているコースですので、まだ受講されておられない方は是非ご参加下さい。

日時	第8期：2008年6月12-13日（木・金）9:00～16:30 第9期：2008年7月24-25日（木・金）9:00～16:30
会場	The Imperial Tara Hotel（Sukhumvit 26）
受講料	TPA会員・JCC会員：5,500 Baht / 一般：6,200 Baht（VAT・昼食含む）

担当連絡先：Tel. 0-2717-3000～29 Ext. 771

◆ 日本人専門家による特別セミナー「Failure Mode and Effect Analysis:FMEA」◆

Failure Mode and Effect Analysis:FMEAは、事前に問題を把握し対応をとる手法で、新設計や新製造工程に、潜在的にある故障要因を抽出する手法を学ぶことで、品質管理と信頼性の向上を行い、保水性、安全解析をすることで、事故防止の手法として使われています。

この度、東京大学ものづくり研究センターより専門家をお招きし、FMEAセミナーを開催いたします。

日時	5月13-14日(火・水) 9:00-16:30
講師	伊藤洋氏 東京大学 ものづくり経営研究センター(MMRC) 特任研究員 元ホンダエンジニアリング(株)取締役
会場	Radisson Hotel , Rama 9
受講料	会員:7,500バーツ 一般:8,500バーツ (料金にはVATは含まれておりません)

◆ 日本人専門家による特別研修「Lean and Toyota Production System」◆

日本より、「Toyota Way」に造詣の深い講師をお迎えし、特別研修「Lean and Toyota Production System」を実施いたします。

ワークショップをメインとし、トヨタ生産方式(TPS)を中心に、日本の製造業のマネジメントの基本である、「5S」や「QCサークル」、「TPM」、「TQC/TQM」をも包含した研修となっており、企業の競争力向上のため、「TPS/Lean」を実践するマネジメント方法論についてご指導いただきます。

日時	5月28-30日(水-金) 9:00-16:30
講師	黒岩恵氏名古屋工業大学産学官連携センター客員教授、 元トヨタ自動車㈱情報事業企画部担当部長
会場	Radisson Hotel , Rama 9
受講料	会員:10,000バーツ 一般:11,000バーツ (VAT含む)

日本人専門家コース担当連絡先: Tel:0-2717-3000, Ext751(Ms. Ungwara),752(Ms.Sucheera)
e-mail:ungwara@tpa.or.th, sucheera@tpa.or.th

編集・発行



泰日経済技術振興協会(タイ語略称:ソーソートー)
Technology Promotion Association(Thailand-Japan)
<http://www.tpa.or.th>

日本語でのお問い合わせは、日本人スタッフまでお願いいたします。
Tel 02-258-0320 浅見Ext.1913

[スクンビット本館]

- 語学事業(日本語、タイ語、英語、中国語)
 - 出版事業(語学テキスト、技術書、文化本、日本語書籍からの翻訳出版を含む)
- 5-7 Sukhumvit Soi 29,Bangkok 10110



[パタナカーン新館]



- セミナー研修事業(技術、経営など)
- 工業計測器気の校正、環境検査事業
- 診断・コンサルティング事業
- インターネットビジネス事業

534/4 Pattanakarn Soi18,Bangkok 10250 Tel.02-717-3000 Fax.02-719-9481